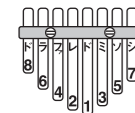


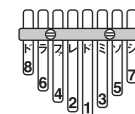
アマリリス

Musical notation for 'アマリリス' (Amarilis) with fingerings: 5 6 5 8 5 6 5 6 6 5 6 5 4 3 2 3 1



アメイジング・グレース

Musical notation for 'アメイジング・グレース' (Amazing Grace) with fingerings: 1 4 6 4 6 5 4 2 1 1 4 6 4 6 5 8 6 8 6 4 6 5 4 2 1 1 4 6 4 6 5 4 4



アフリカのカリンバにちょう戦してみよう

Musical notation for 'アフリカのカリンバにちょう戦してみよう' with fingerings: 5 5 6 7 8 5 7 5 6 1 3 2 5 5 6 5 6 5 6 5 6 1 3 2 5 7 8 1 6 2 7 5 6 1 3 2 5 5 6 1 3 2 7 5 6 1 3 2 8 7 5 1 6 2 7 5 6 1 3 2 6 7 5 1 3 2 5 5 6 1 3 2

13 テノートを意識して演奏すると、アフリカ音楽らしいビート感が出る。

simile 8 7 5 1 6 2 7 5 6 1 3 2 6 7 5 1 3 2 5 5 6 1 3 2 rep.&rep.



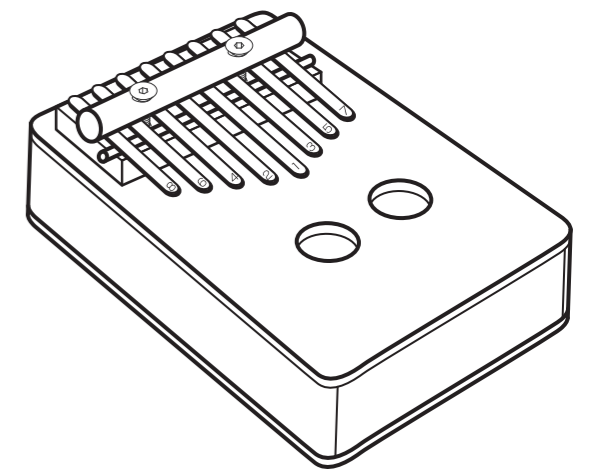
スズキキット教材

トレモロカリンバキット

作ってみよう!

組み立て説明書

組み立て、ご使用を安全におこなっていただくため、この組み立て説明書をよくお読みください。お読みになった組み立て説明書は、大切に保管してください。

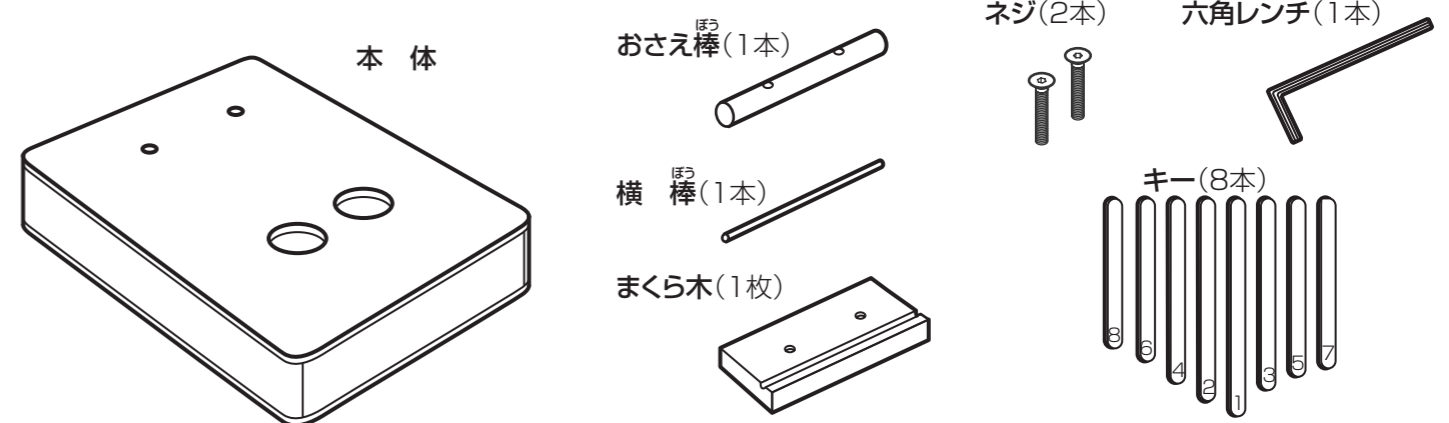


カリンバは、共鳴体をかねた箱や板に一組のキーを並べて固定し、主に親指でキーをはじいて演奏することから「親指ピアノ」とも呼ばれています。カリンバは、アフリカを代表する民族楽器であり、アフリカでは「心の楽器」として親しまれています。その歴史は古く、古代エジプトの古文書にすでに記されています。アフリカでは、材質や大きさ、キーの本数や並び方も様々な、色々な種類のカリンバを見ることができます。

このキットでは、共鳴箱を使ったカリンバを取り上げましたが、かざりをつけてノイズを発生させるなど、手を加えてオリジナルのカリンバ作りにちょう戦してみましょう。

“確認しよう”

組み立てる前に、全ての材料が入っているか、確認しましょう。



株式会社 鈴木楽器製作所
鈴木楽器販売株式会社

〒430-0852 静岡県浜松市中区領家 2-25-7 ☎(053)461-2325

事務所移転等のため、住所・電話番号が変わる場合がございます。最新の情報につきましては、弊社ホームページをご覧ください。

⚠ 注意 組み立てる前によく読んでください。

- ❌ 部品を投げたりふり回したりしないでください。破損の原因となるだけでなくケガのおそれがあります。
- ⚠️ 金属部品等は、安全性を考えた加工をしていますが、ケガなどがないように取りあつかいに注意してください。
- ⚠️ キーの間に指を入れたり、部品を口や目の中に入れてしないでください。ケガの原因となります。
- ⚠️ 小さいお子様の手の届かないところに保管してください。思わぬ事故につながります。
- ⚠️ 組み立て後、調律などでキーを動かしたい場合はネジをゆるめてからおこなってください。無理に動かすと破損の原因となるだけでなく、ケガのおそれがあります。
- ❌ 水分の多い場所やしつ度の高い場所、極度に温度の高い場所での使用・保管はさけてください。変形や破損の原因となります。

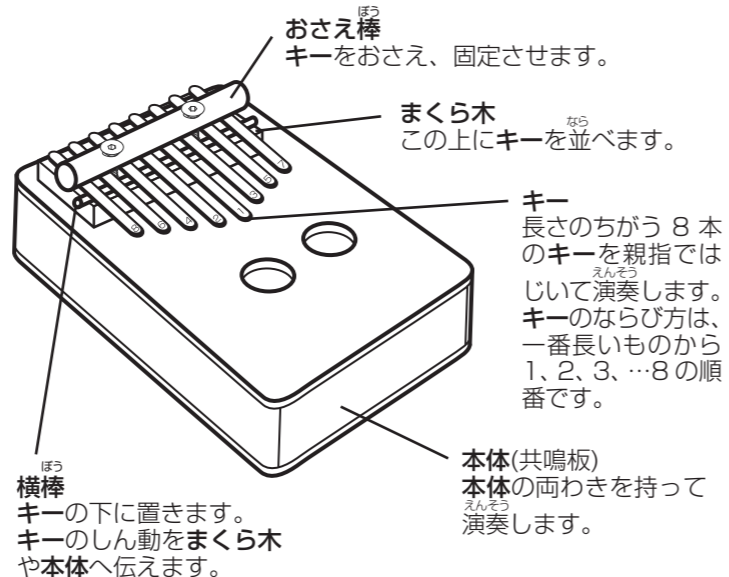
“トレモロカリンバの特長”

トレモロカリンバキットの特長

「トレモロ」とは「ふるえる」という意味のイタリア語で、音楽用語では、音が細かく、きそく的にくりかえすことや、その演奏法のことを言います。

トレモロカリンバキットの本体のまん中には、二つ並んで穴があいています。キーを指ではじいたあと、すぐに、この穴を指でパタパタとくり返し開閉すると、ふしぎな音（トレモロ音）に変化します。このようにトレモロ演奏ができること、トレモロの音を得られることから、「トレモロカリンバ」という名前が付けました。

さあ、組み立てて、トレモロ演奏にチャレンジしてみましょう。



“組み立てよう”

アドバイス

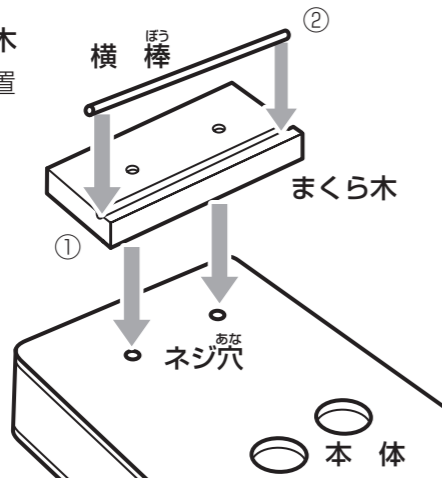
本体、まくら木に色をぬったり、絵をかいたりする場合は、組み立てる前に行いましょう。本体とまくら木の表面は、紙ヤスリをかけておくと、色がつきやすくなります。組み立ては、絵の具がかわいてからにしましょう。

1, 部品を正しい位置に置こう

① 図のように、まくら木を本体の表板の上に置きます。

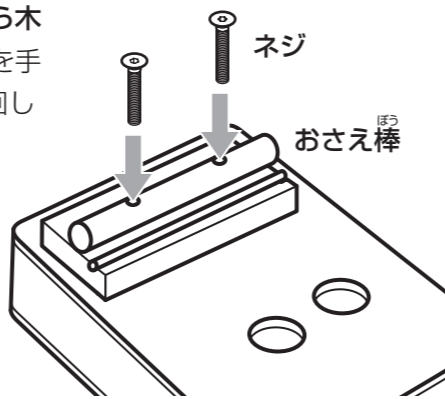
注) 本体のネジ穴とまくら木のネジ穴の位置を合わせておきましょう。

② 細いみぞの上に横棒を置きます。



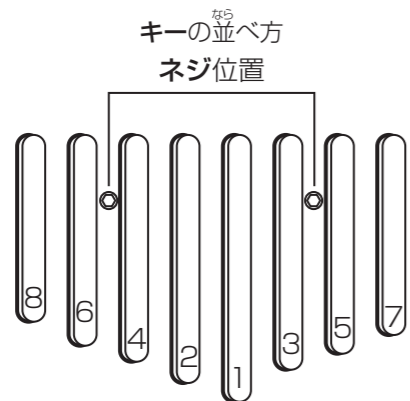
2, キーを取り付ける準備をしよう

① おさえ棒の穴の位置を合わせて、まくら木の上に置き、ネジを手で3回転くらい回して軽くしめ、おさえ棒、まくら木、本体を留めます。

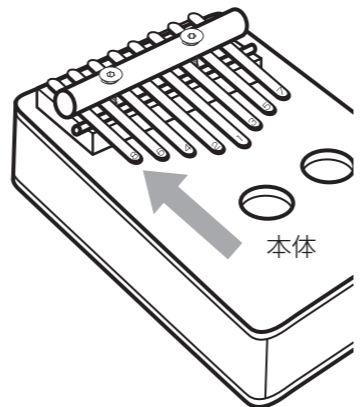


3, 音が鳴るキーを順番に正しく取り付けよう

① キーは、1番長いものから短いものへと番号順に右図のように並べておきます。キーの先でケガをしないように注意しましょう。



② キーに刻印されている数字の順番どおりに、図のようにおさえ棒とまくら木の間へキーを差しこみます。



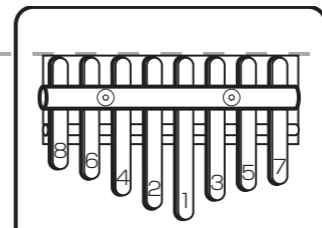
4, キーを正しく取り付け音程を合わせよう

① キーは下図の位置に置くことでほぼ八長調（C調）になります。

② キーが順番に正しく取り付けられたら、おさえ棒を六角レンチでしめます。

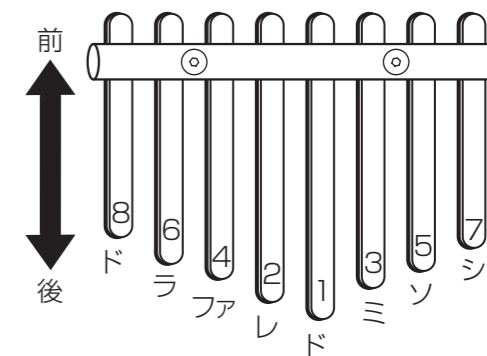
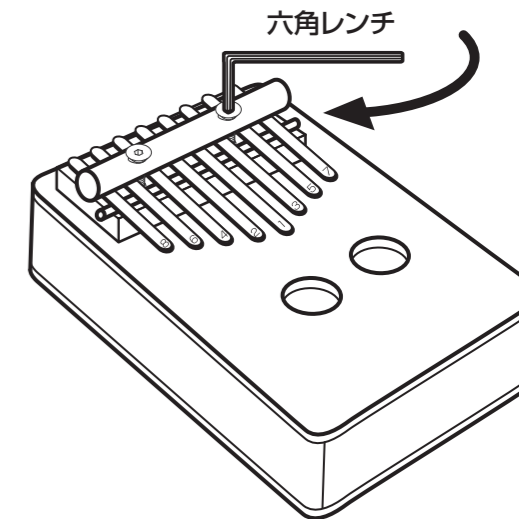
この時は、手で軽くキーが前後に動かせる程度までしめます。

まくら木の上と、キーの上が合うように。



③ 1～8まで順番にはじいて音を出し、キーを前後に動かしてチューニングしましょう。

④ 音程を合わせることが出来たら、さらにキーが固定するまでネジをしめてください。



注意

- ・ ネジを強くしめすぎると、まくら木や本体がわれることがあります。
- ・ ネジを強くしめた状態でキーを動かすと、キーが変形することがあります。

六角レンチは、使用後は無くさないように大切に保管してください。

“音を出してみよう”

5, 演奏してみよう

キーをはじいたあと、すぐに穴を指でパタパタと、くり返し開閉してみましょう。

ふしぎな音が聞こえてきましたか？

アドバイス

低い音は、2つの穴を同時に開閉すると音がふるえます。

裏面に楽ふがあります。曲の演奏にチャレンジしてみましょう。

